

梅窓院通信

お盆号

No. 95
2018/06/01

青山



梅窓院墓域に開苑した樹木葬専用墓苑「梅林苑」の開眼納骨法要

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成

皆さん、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

一方、世の中の変化は止まることを知りません。お墓も例外ではなく、大きな変化の波が訪れています。梅窓院も樹木葬専用の墓苑を開苑することになりました。梅の木を九本植えた梅林苑ばいりんえんです。

その梅林苑の開眼式と納骨式を四月十五日（日）に行いました。二十一霊のお骨を、六十五人のご家族が見守る中、私が導師を務めてお納めさせていただきましたが、法要の最後にご列席の皆さんに呼びかけて十念（お念仏、南無阿弥陀仏を声に出して十回称える）をしたところ、普段の本堂での法要時よりも大きな声で念仏が称えられました。室内ではなく屋外でしたので、本当に大きな声でした。

さらに多くの参列者から納骨した故人の位牌や石碑を作りたい、梅窓院の信徒になりたいというご希望を数多くいただきました。正直、お墓や納骨堂を求めずに樹木葬を望む方々は、従来とは違い、お骨やお墓、そしてお寺や宗教から離れ気味の方々に近いと思っただけに、大いに驚かされました。

梅窓院に新たな埋葬が増えたお知らせでした。

さて、次は残念なお知らせです。秋の恒例行事、M・ファン・デン・フックさんのピアノリサイタルが今年はお休みとなります。フックさんが体調を崩され、一年間休養されるということです。

また、傳通院、祐天寺と合同で行っていた三か寺団体参拝も中止となりました。こちらは参加人数が限られ始めたことがその理由です。

世の中、色々なことが起きたり、様々に変化しますが、皆様におかれましてはお変わりなく平穏な日々をお過ごしいただけることを祈念申し上げます。

茄子・瓜の馬と牛

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

お

盆になるとなつかしい遠い思い出が私にはいくつつかあ。その中でもとりわけ思いなつかしまれるのは、盆棚飾りの供養の品々である。今になってみると、一つひとつの飾り物にもいろいろな意味合い、謂れがあり、それぞれお盆供養の尊さ、うるわしさを伝えてくれるものであることがよく理解できる。しかし、なにも分からなかった子供時分の祖母や母の語っていたことが、大方は耳にも残らず、忘れ果ててしまったことであるが、お盆三日の気分・風情とともにとてもなつかしい。

盆棚は、精霊棚・魂棚などといい、先祖代々の仏、そして新仏（しんぼ）とけ・にいぼとけ・あらぼとけ）、さらには無縁の一切精霊を迎えて、心から祀り慕う飾り棚である。そして、その棚壇に心の籠もった供養の品々を心を込めて供えるのである。盆棚飾りについてはこの連載（18）の中で触れたので、ここでは正徳三年（一七二三）刊の四時堂其諺『滑稽雑談』中の聖霊棚の説明を引記してみよう。

これ、十三日の暮より聖霊を祭るがために、新たに棚をかへ、新しき薦・筵などを敷き、荷葉を盤となして、果瓜飯餅などを供へて、生

けるを饗すがごとし。その種、多くは瓜・茄子・根芋・枝豆・小角豆・桃子・柿・鹿梨、そのほか好むところに従ふ。麻柄を箸とし、供物を饗す。

江戸時代の盆棚供養のありようを、引文から遠くなつかしんでみたのである。

さてここでは迎馬・送馬について記したい。亡くなった精霊を迎え火を目あてに馬に乗っていらつしやる、そして送り火に送られて馬に乗って帰られる、というのである。仏さまは馬に乗り、荷物は牛に背負わせてお帰りになる、といった言い伝えもあり、迎馬・送馬はやがて迎牛・送牛と混用されることになった。もちろん、苧殻（麻幹）や藁を細工して作った迎馬・送馬もあるが、昔から茄子や瓜に苧殻の足をつけて馬や牛の形に作り、これを茄子の馬・瓜の牛、あるいは瓜の馬・茄子の牛と呼んだのである。茄子は「なすび」とも読み、瓜は「胡瓜」と書く時もある。いずれにしても茄子の馬、瓜の馬それぞれの背に麵類を乗せて鞍を作り、盆棚に二つ並べて供えるのである。

望郷や茄子の馬子の脚ななめ（言人）
脚上げて茄子の馬の流れけり（青子）

五十嵐言人も萩原青子も、茄子の馬の足に着目して、心を込めて見つけている。私は、この二句の句想に歳月の流れをはるかに感じ取りたい。

父乗せて少し俯く瓜の馬
おもかげや二つ傾く瓜の馬
（輝久）
（波郷）

今は亡き父の仏を乗せて帰る瓜の馬。その送馬の俯き加減は、精霊送りをする二本松輝久自身の心の俯きを反映しているのではなからうか。一方、石田波郷の句には、二つの瓜の馬の傾き加減に遠い日の精霊の面影がオーバーラップ、つまり二重写しに重なり合ってくる。私は波郷のこの句を心していただいで、今は亡き自分の両親、父と母の面影を思い起こしてなつかしんでみる。

ところで、私の生まれた地方では「瓜の馬・茄子の牛」と言い習わしていたが、私の思い出には、やはり子供時分の私の家族のことがいちばんなつかしく、せつなく慕われる。とくに私にとっては、祖母や母の盆支度・盆用意の姿である。そして祖母や母の語らいの声音や支度のさまが、今もありありと思ひ起こされるのである。
（天正大学名誉教授）

三月・四月の

行事報告

平成三十年春彼岸法要
3月21日(水・祝)



法要



寄席



動物慰霊法要



今年も20・21日と郡上八幡物産展を開催致しました。

増上寺詠唱奉納大会
4月4日(水)



詠唱大会



花まつり

花まつり
4月6日(金)
〜8日(日)

増上寺御忌大会
4月6日(金)



大本山 増上寺御忌大会

お盆

七月十三日(金)

盂蘭盆会法要

午前十時半～

地下二階 祖師堂

御棚経

七月十三日～十五日

お盆に寄せて

お盆とは

お釈迦様の弟子、目連尊者は神通力によって母親が餓鬼道に堕ち苦しんでいることを知り、お釈迦様に母親を救う方法を聞くと、「修行が終わる7月に僧侶を招いて、餓鬼への供養を施しなさい」とのことでした。すぐに実行して母親を救ったことがお盆行事のいわれで、先祖代々に加えあらゆる精霊を供養する行事となりました。

棚経については同封の別紙「お盆について」をご覧ください。また、不明な点がございましたら梅窓院法務部へお問い合わせ下さい。

盂蘭盆会 塔婆・回向のお申込み方法とお知らせ

◆盂蘭盆会 塔婆・回向のお申込み方法

盂蘭盆会法要に関しましては短冊でのお申込みを取りやめ、はがきで「塔婆回向」と「回向のみ」を、御一緒にお申込み頂けるようになりました。それぞれ冥加料が異なりますのでご注意ください。なお、諸事情より昨年に引き続き塔婆料と回向料を値上げさせて頂きました。ご了承下さいますようお願い申し上げます。

塔婆回向 1 本 10,000円

御回向料 1 霊 5,000円

お申込み方法

同封はがきにご記入の上、7月1日(日)必着でお申込下さい。

はがきの書き方は同封の「書き方例」をご参照下さい。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付までお持ち下さい。銀行・コンビニでのお支払いはできません。

ご不明な点は梅窓院受付までお問い合わせ下さい。

今年もお盆の季節がやってまいりました。お盆にはあの世へと旅立ったみ霊がこの世へと還ってくると思われています。東京では七月十三日に迎え火でみ霊を自宅へとお迎えし、十六日に送り火でみ霊を送り出します。また盆踊りは槽を中心にして、輪になって踊りますが、この槽にはみ霊が降りてきて、生きている私達と亡くなった方々が交じり合っていて、一緒になって踊るとされています。これらは仏典には説かれておりませんが、日本古来の祖霊信仰とともに、亡き人と共に生きたいという願いがお盆という形になって、今に伝わっております。

法然上人に浄土宗開宗のきっかけを与え、法然上人が生涯、師と仰がれた方に中国の善導大師がおります。亡き人との関わりについて、善導大師は極樂へ生まれた方は六神通という六つの不思議な力を得て、この世へ還って力添えしてくださると仰っています。私たちが亡き人を思って、手を合わせ、真心からお念仏するときに、その声は必ずや亡き人に届いていることでしょう。七月十三日の盂蘭盆会の大法要の後、十五日までのお盆の期間にお棚経といつて、新盆を迎えるお檀家様とご希望のお檀家様のご自宅にてお経を讀ませて頂き、亡き人を供養させて頂いております。ご自宅に伺った際には、どうぞ善導大師様のお言葉を胸に収めて、亡き人と共に今を生きている、そういう思いで一緒にお念仏をお称え頂ければと思います。

合掌(法務部/中島真紹)

故



昭和34年～38年在籍

宮城教区第五組
淨念寺
宮城県気仙沼市東中才



昭和41年～44年在籍

宮城教区第五組
光明院
宮城県遠田郡
涌谷町字長柄町



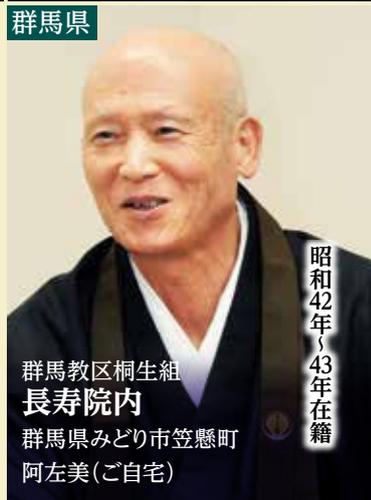
昭和46年～50年在籍

静岡教区東豆組
海福寺
静岡県熱海市下多賀



昭和38年～42年
昭和44年～47年
在籍

岩手教区花巻組
鳥谷寺
岩手県花巻市
石鳥谷町好地



昭和42年～43年在籍

群馬教区桐生組
長寿院内
群馬県みどり市笠懸町
阿左美(ご自宅)



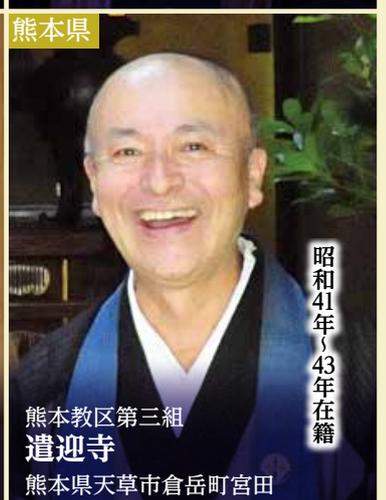
昭和39年～42年在籍

佐賀教区鹿島組
鏡智院
佐賀県鹿島市大字森



昭和40年～44年在籍

静岡教区岳陽組
大運寺
静岡県富士市中央町



昭和41年～43年在籍

熊本教区第三組
遣迎寺
熊本県天草市倉岳町宮田



昭和44年～48年在籍

静岡教区東駿組
林昌寺
静岡県御殿場市山之尻



昭和46年～50年在籍

神奈川県
神奈川教区三浦組
三樹院
神奈川県三浦市
南下浦町上宮田

山梨県

山梨教区山梨組
光明寺
山梨県山梨市上神内川

昭和30年～34年在籍

昭和33年～36年在籍

静岡県

静岡教区東駿組
善龍寺
静岡県御殿場市中畑

昭和36年～39年在籍

『青山』連載記事

梅窓院を囲む日々

梅窓院を

支えてきた

ご僧侶たち

特別編

愛知県

三河教区岡北組
松明院
愛知県岡崎市細川町根古屋

昭和44年～46年在籍

昭和48年～54年在籍

宮城県

宮城教区第二組
善導寺
宮城県仙台市若林区新寺

昭和48年～49年在籍

北海道
北海道第二教区東組 大然寺
北海道帯広市東五条南

故
昭和41年〜45年在籍

京都府
京都教区京極組 念佛寺
京都府京都市南区東九条柳下町

昭和43年〜47年在籍

佐賀県
佐賀教区唐津組 專稱寺
佐賀県唐津市鎮西町名護屋

秋田県
秋田教区県南組 九品寺
秋田県横手市前郷一番町

昭和48年〜52年在籍

宮城県
宮城教区第六組 往生寺
宮城県栗原市栗駒菱沼竹林

昭和49年〜54年在籍

愛知県
三河教区岡北組 蓮性院
愛知県岡崎市細川町字権水

平成11年〜18年在籍

神奈川県
在家
神奈川県横浜市栄区上郷町

昭和52年〜56年在籍

愛媛県
愛媛教区宇和島組 西海寺
愛媛県宇和島市遊子

平成18年〜22年在籍

東京都
東京教区城西組 教善寺
東京都港区六本木

宮城県
宮城教区第六組 来迎寺
宮城県大崎市岩出山浦小路

昭和48年〜54年在籍

愛知県
三河教区岡崎組 蓮馨寺
愛知県岡崎市伊賀町愛宕下

昭和56年〜60年在籍

青森県
青森教区北組 薬王寺
青森県北津軽群板柳町大字五林平字前橋

平成21年〜26年在籍

「梅窓院を囲む人々」で連載してきた梅真会ばいしんかいシリーズが前号で最終回を迎えました。梅真会とは梅窓院ばいしんに関わるご僧侶の会で、学生時代にお寺に住み込みで手伝ったずいしん隨身や、職員として勤務していた僧侶の皆さんの会です。会名は先代、中島真哉住職がお寺と自分の名前から一文字ずつとったもので、昭和45年に発足しました。

会員の多くは今でも梅窓院の法要や行事をお手伝いしてくれています。既にお浄土に旅立たれた方、諸事情で誌面にご登場いただけなかったご僧侶もいらつしゃいます。

また、梅真会の会員ではないながら囲む人々にご登場いただいたご僧侶も含めて、一堂にご紹介させていただきます。

今回の特集にあたり梅真会の皆さんに
 隨身時代の思い出の写真をお借りできないかとお願いし、
 お送りいただいた写真で構成した思い出のアルバムです。

思い出のアルバム



先々代中島真孝住職、先代真哉住職の頃
 下は裏玄関前でのもちつき。左下は日本堂



日本堂本尊前での記念写真と花まつり



学寮仲間と一緒に。左上は三浦海岸。



旧祖師堂での法要

地域と世代を超える 梅真会

第5代会長

昭和39年から父親の関係で先々代中島真孝住職時代の梅窓院にお世話になってから50余年が経っている。卒業後に梅真会が発足し、そのお仲間に入れていただいた。その後、多くの隨身が会員となっているが、出身教区を超え、世代を超え、生活環境を超えてのご交誼は今も変わらず続いている。これは本当に有難いことである。

この度、この梅真会を中心として、梅窓院と関わりの深い僧侶の特集を組むので、と原稿を頼まれたが、隨身時代を振り返ると懐かし思い出ばかりで書き出したらきりが無い。

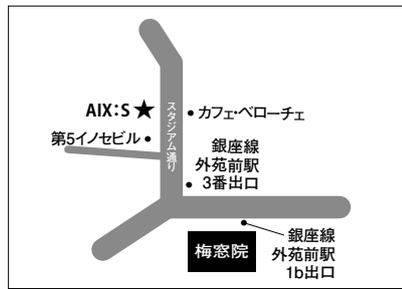
ということで、梅窓院の更なる発展と、梅真会会員諸氏のご健康とご活躍を祈念し、会長として短いながら一文とさせていただきます。 合掌



エックス

今回は2017年7月、北青山にオープンしたフレンチ料理エックスをご紹介します。
オーナーシェフの山下敦司さんは華やかな経歴の持ち主です。
25才でフランスに渡ると三ツ星レストランで部門シェフを勤めるまでになり、日本に戻るとエリート料理学校「ル・コンド・ブルーパリ」の教授を務めました。その後、東條會館のレストラン「アルゴ」でエグゼクティブシェフとして料理人の世界に戻り、現在はエックスで独立しました。

山下シェフが料理に対して心掛けている事は「家庭ではできない驚きと美しさ」です。特にオスメは5800円のコースの「サーモンの薫製モンブラン仕立て」です。ビーツで色付けしたジャガイモのピューレ状は色鮮やかで美しく、それをスモークサーモンの上に絞った料理は一瞬デザートが出てきたのかと驚かされました。味もジャガイモの甘さとスモークサーモンの塩加減が絶妙で、とても美味しかったです。
ランチは1200円、3700円、5800円の三種のコースがあります。夜は5800円のコースのみと、ぜひ、法要の後席で山下シェフが生み出す素敵な料理を堪能しに行きませんか。



営業時間/ランチ 11:30~15:00 (L.O.14:00)
ディナー 18:00~23:00 (L.O.21:30)
不定休
席数/60席
住所/東京都港区北青山2-9-8
セントラルレジデンス北青山アークシルコート B1F
TEL/03-6434-0356



5800円のコース
繊細で色鮮やかな料理の数々を楽しむことができます。



天井が高く地下とは思えないほど開放的な空間になっています。

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○剥落の石仏ゆかし遍路道

◎入選

○殉教のありたる島に春の雪

○神宮の枝垂桜に朝日さす

○満開の花をメールで届けたり

○花を背にただ黙々と呑むばかり

○谷川の水は満々柿若葉

○沈丁花遅い朝刊門で待つ

○出航のベルに駆け足山桜

○初めての靴よちよちと花踏んで

○春うらら遊覧船の出航す

◎選者詠

○おぼろ夜の羽田空港管制塔

大崎 紀夫

○ワンポイントアドバイス

俳句には客観的な句と主観的な句、あるいはその両方が混じっている句などさまざまありますが、いずれにしても句の中に目に見える物がひとつ入っているとしっかりした作品になるようです。物が詠み込まれていると、読む者はその物をイメージし、そこからイメージをふくらませることができるといえます。

投句募集

今回は「夏の季語」でご自由にお詠み下さい。7月1日を締切り、9月発送の『秋彼岸号』にて発表致します。
住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。
皆さまの投句をお待ちしております。
〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
ウェブ編集室
電話03-5368-1870

第七十一回

食は命

食養研究家
武鈴子

夏を涼しくする
「緑豆」

暑い夏を涼しく健康に過ごすには、クーラーで体の外側を冷やすだけでなく、体の余分な熱を冷まして、暑さを取り除いてくれる清熱解暑の食べものをしっかり摂って体の内側から涼しくしましょう。夏に多い熱中症は、夏の強い日射しの下だけでなく、高温多湿の室内でも発症します。

冷たい飲食をして、クーラーの中で汗もかかないでいると、体内に熱がこもってしまいます。汗を流すこともなかったらせめて食べ物で補いましょう。

体内にこもった余分な熱を除いて、暑さを解消する食べ物は、夏に本番を迎える夏野菜たちです。キュウリ、ナス、トマト、ゴーヤ、スイカなどは夏バテを解消する薬食です。

中国では昔から暑気あたりには緑豆を食べる習慣があります。私が薬膳の勉強で中国にいたときも、夏になると屋外で緑豆汁を売っている情景をよく見かけました。

薄甘でさらさらとスープ感覚の緑豆汁をみんな食べていました。緑豆は、もやしや春雨の原料。体の余分な熱を取り除いて、口の渴きをいやす、胃腸にやさしい涼性の食物です。

キュウリやトマトなどと組み合わせた「春雨サラダ」は暑気を払い、体がよるこぶ一皿。夏バテだけでなく、ダイエットにも最適な食べ物ですよ!

行事予定

開山忌法要・能楽奉納

6月9日(土)

写経 午後2時～ 法堂
法要 午後3時～ 本堂
能楽 午後4時～ 祖師堂

第74回 念仏と法話の会

6月19日(火)

11時30分～(受付11時より開始)

盂蘭盆会法要

7月13日(金)

午前10時30分～ 祖師堂

※詳細は3面をご覧ください。

お檀家さんに伺いました

平成30年春彼岸法要にて

「お抹茶をいただきました。」

毎年、春と秋のお彼岸に親戚皆でお参りに来ています。本日はおばとおじ夫婦の4人で参りました。お抹茶をいただきましたが、美味しかったです。お菓子も甘さ控えめでお抹茶に合うお味でした。また、着物やお茶碗の模様が綺麗で見とれてしまいました。法要では、祖師堂の法然上人の祭壇が綺麗で、とても印象的でした。

秋彼岸写真展開催

春彼岸号よりお伝えして参りました秋彼岸写真展の応募要項を同封致しました。是非皆様ご参加下さい。

発行 梅窓院
発行日 平成30年6月1日
発行人 中島 真成
編集 青山文化村
住所 〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話 03-3404-8447
FAX 03-3404-8107
ホームページ <http://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail jodo@baisouin.or.jp
題字 中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

開催日 6月25日(月)

参拝先 上野寛永寺他

時間 11時～15時30分(仮)

会費 2,000円(昼食費含む)

事前申込制
先着10名

お問い合わせ:梅窓院 青山文化村
〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
TEL:03-3404-8588 FAX:03-3404-8436
E-mail:bunkamura@baisouin.or.jp

ご希望の方にはご案内をお送りしますので、
お気軽にお問い合わせ下さい。



上野寛永寺

第3回

おきおさんぽ会のお知らせ

東京近郊のお寺とその周辺をお散歩する「おきおさんぽ会」を6月25日(月)に開催することに決まりました。
梅窓院主催により、特別な拝観や法話をさせていただく予定です。
お檀家様同士の交流もできます。
ぜひ、皆様のご参加をお待ちしております。

梅窓院のお墓とペット供養の窓口

日本エキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

先日、梅窓院に新しくできた樹木葬墓地「梅林苑」の初回ご納骨法要を無事に終えることができました。新しい形のお墓ですね。ところで前にも書きましたが私の実家の墓所は本当に遠いのです。行くのも帰るのも大変です。今は車で行っていますが、いつか運転できなくなったら誰が行くのだろうか? と不安になります。梅窓院は夜のお参りでも全然怖くないから……ということで、お盆の頃に、夜、実家の墓所にお参りに行ったら、まあ大変! 真っ暗なのです。懐中電灯も無いので車のライトで照らしながら逃げるようにお参りして帰った覚えがあります。色んなところに虫はいるし、わけわからない草が足元邪魔するわ、夜のお参りなんかもうまっぴらごめんと思ったものです。車中、梅窓院にお墓をお持ちの皆様が羨ましかったです。お参りのときに私たちに会ったらお声がけ下さいね。
(墓苑部 森)